

## バラ十字会の歴史（「[バラ十字会日本本部](#)」）

### 「古代組織黄金バラ十字団」

1776年に三剣ロッジのメンバー数人が、「**古代組織黄金バラ十字団**」と呼ばれる新しいバラ十字メーソン組織を設立した。この労を肩に担ったのは、プロイセンの将校でフリードリヒ大王の没後軍務大臣になったヨハン・ルドルフ・フォン・ビショッフスヴェルダ（1741-1803）と、プロイセン王の経済顧問だったヨハン・クリストフ・ヴォルナー（1732-1803）であった。ベルリン市の「三世界全国グランド・ロッジ」がこの組織の活動拠点となった。すなわち、〈徒弟〉、〈理論家〉、〈実践家〉、〈哲学者〉、〈小達人〉、〈大達人〉、〈免除達人〉、〈大師〉、〈秘伝博士〉の9段からなる位階制が採用された。この象徴的な位階は、1777年にプラハ市で開催された代表者大会の会期中に改正された文書の中から取り入れられた。

フォルスティエールが指摘するところによると、〈徒弟〉の教義は110ページから成るゲオルグ・フォン・ウェリングの「Opus Mago-Cabbalisticum et Theosophicum（1719）」が再版されたものであり、**ゲーテ**はこの書によって**バラ十字思想に入門した**とされる。さらに〈理論家〉の教義と儀式は、クリストフ・グレイザーの「Novum laboratorium medico-chymicum（1677）」からの借用であった。〈大師〉の教義の中で述べられている錬金術の諸作業はどうかといえば、ハインリッヒ・クンラートの「Confessio de Chao Physico-Chemicorum Catholico（1596）」と「永遠の叡智の円形劇場（1609）」の二冊からとられていた。つまり、この組織の諸儀式と教義は明らかに**錬金術を志向**していた。

**錬金術とバラ十字思想とメーソン思想が混ざったこの運動**は、「16世紀および17世紀のバラ十字会の秘密の象徴」（1785, 1788）と題する名高い本を生み出した。見事な挿絵入りの錬金術諸論文から主として成るこの本は、三つの〈宣言書〉以後の最も重要なバラ十字書であるとしばしば言及されている。

### エッセネ派とtemplar騎士団

メーソン組織である**古代組織黄金バラ十字団**（我々はここで「メーソン」という言葉を、18世紀バラ十字会とは全く無関係ながら同様の名称を使用している昨今の団体とは全く区別して使用していることを明記しておく）は、17世紀のバラ十字運動とは異なる特徴を有しており、**その起源は聖マルコに洗礼を受けたエジプトの聖職者オルムスあるいはオルミサスにまで遡ると主張**していた。そして**オルムスはエジプト神秘学派とキリスト教を融合させ、オルムス派を設立**し、赤色で装飾された黄金の十字を象徴として用いていた。**西暦151年に、エッセネ派がこの学派と結合**し、この学派は「モーゼとソロモンとヘルメスの秘儀の守護者」という名を掲げた。

4世紀まで、この組織は会員が7名を越えることはなかった。12世紀になって、**1187年にエルサレムがイスラム教徒に奪還された時に数名のtemplar騎士団員たちが入門**し、団員たちは世界中に存在するようになった。その中の三人が東方に落ちて設立したのが、「**東方の建設家の会**」であった。レイモンド・ルーリーはこの組織に入会し、すぐその後イギリスのエドワード1世を入会させた。その結果、この組織の高段位者は**ヨーク家とランカスター家ばかり**になってしまった。両家の紋章に薔薇が使われたのは、黄金の十字に薔薇があしらわれた象徴をこの組織が使用していたためであった。

### 「アジア秘儀入門騎士兄弟会」

このようにして、メーソン黄金バラ十字団が存在するようになったのであった。それは**伝説的な秘密組織であったにも関わらず18世紀にドイツに起こり、当時ドイツで最も重要なメーソン団となった「謹厳遵守templar騎士団」の覚醒を促すこと**となった。ここで我々は、この時代になるまでバラ十字運動は未だ発見されずじまいの諸分派や小さな集団を発生させたのみであったのに対して、メーソン古代組織黄金バラ十字団はその活動を立証する膨大な文書を残していることを強調しておかねばなるまい。更にこの組織は中央ヨーロッパに広く

拡大し、プロイセンのフレデリック・ウィリアム王子やロシアの大衆作家で博愛主義者であったニコライ・ノヴィコフなどの数多くの著名な会員がいた。この組織は1787年に設立者によって解散させられたが、その後カール・ヘッセン=カッセル方伯がグランドマスターであった「アジア秘儀入門騎士兄弟会」（1779）を生じさせる基となった。疑う余地なく、謎の人物サン・ジェルマン伯爵はこの運動の一員であった。事実、サン・ジェルマン伯爵は1778年からカール方伯のもとに移り住み、カール方伯は伯爵の弟子となり後援者となったのであった。